

## ◆第1章

アジア・パシフィック・イニシアティブ（2022）『検証 安倍政権』文春新書。

五十嵐武士（1986）『対日講和と冷戦』東京大学出版会。

NHK 放送世論調査所編（1982）『図説 戦後世論史 第二版』NHK 出版。

大嶽秀夫（2006）『小泉純一郎 ポピュリズムの研究』東洋経済新報社。

岡田一郎（2016）『革新自治体』中央公論新社。

古関彰一（1989）『新憲法の誕生』中央公論社。

佐々木毅（1987）『いま政治になにが可能か』中央公論社。

佐々木毅編（1999）『政治改革 1800 日の真実』講談社。

佐藤誠三郎・松崎哲久（1986）『自民政権』中央公論社。

佐藤卓己（2005）『8月15日の神話』筑摩書房。

新川敏光（1999）『戦後日本政治と社会民主主義』法律文化社。

竹中治堅（2006）『首相支配』中央公論新社。

中北浩爾（1998）『経済復興と戦後政治』東京大学出版会。

中北浩爾（2002）『一九五五年体制の成立』東京大学出版会。

中北浩爾（2012）『現代日本の政党デモクラシー』岩波書店。

日本再建イニシアティブ（2013）『民主党政権 失敗の検証』中央公論新社。

原彬久（1988）『戦後日本と国際政治』中央公論社。

宮本太郎（2008）『福祉政治』有斐閣。

## ◆第2章

明智カイト（2015）『誰でもできるロビイング入門——社会を変える技術』光文社。

ダウズ，A／古田精司監訳（1980）『民主主義の経済理論』成文堂。

伊藤光利・田中愛治・真淵勝（2000）『政治過程論』有斐閣。

蒲島郁夫（1988）『政治参加』東京大学出版会。

川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子（2011）『現代の政党と選挙 新版』有斐閣。

駒崎弘樹・秋山訓子（2016）『社会をちょっと変えてみた——ふつうの人が政治を動かした七つの物語』岩波書店。

砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社。

田中愛治（1997）「「政党支持なし」層の意識構造——政党支持概念再検討の試論」『レヴェア  
イアサン』20：101-129。

谷口尚子（2005）『現代日本の投票行動』慶応義塾大学出版会。

平野浩（2007）『変容する日本の社会と投票行動』木鐸社。

三宅一郎（1989）『投票行動』東京大学出版会。

山田真裕・飯田健編（2009）『投票行動研究のフロンティア』おうふう。

Brady, H. E., S. Verba, and K. L. Schlozman. (1995) “Beyond SES: A Resource Model of Political

- Participation,” *American Political Science Review*, 89(2): 271-294.
- Campbell, A., P. Converse, W. Miller, and D. Stokes. (1960) *The American Voter*, University of Chicago Press.
- Fiorina, M. P. (1981) *Retrospective Voting in American National Elections*, Yale University Press.
- Gerber, A. and D. P. Green. (2000) “The Effects of Canvassing, Telephone Calls, and Direct Mail on Voter Turnout: A Field Experiment,” *American Political Science Review*, 94(3): 653-663.
- Jou, W., and M. Endo. (2015) “Presidentialization of Japanese Politics?: Examining Political Leader Evaluations and Vote Choice,” *Japanese Journal of Political Science*, 16(3): 357-387.
- Kinder, D. R., and D. R. Kiewiet. (1981) “Sociotropic Politics: The American Case,” *British Journal of Political Science*, 11(2): 129-161.
- Kramer, G. H. (1971) “Short-Term Fluctuations in U.S. Voting Behavior, 1896-1964,” *American Political Science Review*, 65(1): 131-143.
- Krauss, E. S., and B. Nyblade. (2005) “‘Presidentialization’ in Japan? The Prime Minister, Media and Elections in Japan,” *British Journal of Political Science*, 35(2): 357-368.
- Lazarsfeld, P., B. Berelson, and H. Gaudet. (1948) *The People’s Choice: How the Voter Makes Up His Mind in a Presidential Campaign*, Columbia University Press.
- Lupia, A. (1994) “Shortcuts Versus Encyclopedias: Information and Voting Behavior in California Insurance Reform Elections,” *American Political Science Review*, 88(1): 63-76.
- McElwain, K. M. (2008) “Manipulating Electoral Rules to Manufacture Single-Party Dominance”, *American Journal of Political Science*, 52(1): 32-47.
- Riker, W. H. and P. C. Ordeshook. (1968) “A Theory of the Calculus of Voting,” *American Political Science Review*, 62(1): 25-42.
- Rosenstone, S. J., and J. M. Hansen. (1993) *Mobilization, Participation, and Democracy in America*, Longman Publishing Group.
- Verba, S., and N. H. Nie. (1972) *Participation in America: Political Democracy and Social Equality*, Harper & Row.

### ◆第3章

- 足立研幾（2002）「地球化と世界志向利益団体」辻中豊編『現代日本の市民社会・利益団体』木鐸社：191-209。
- 石田雄（1960）「わが国における圧力団体発生の歴史的条件とその特質」日本政治学会編『年報政治学 1960——日本の圧力団体』岩波書店，11：30-45。
- 伊藤光利（1988）「大企業労使連合の形成」『レヴァイアサン』2：53-70。
- 猪口孝（1983）『現代日本政治経済の構図』東洋経済新報社。
- 後房雄・坂本治也（2019a）「日本の市民社会の実態分析」後房雄・坂本治也編『現代日本の市民社会——サードセクター調査による実証分析——』法律文化社。

- 後房雄・坂本治也（2019b）「サードセクター組織の政治・行政との関係性」後房雄・坂本治也編『現代日本の市民社会——サードセクター調査による実証分析——』法律文化社。
- 辻中豊編（2002）『現代日本の市民社会・利益団体』木鐸社。
- 辻中豊・崔宰榮（2002）「歴史的形成」辻中豊編『現代日本の市民社会・利益団体』木鐸社：255-286。
- 辻中豊・崔宰榮・久保慶明（2010）「日本の団体分布とリソース——国際比較と国内地域間比較から」辻中豊・森裕城編『現代社会集団の政治機能——利益団体と市民社会』木鐸社：65-89。
- 辻中豊・山本英弘・久保慶明（2010）「日本における団体の形成と存立」辻中豊・森裕城編『現代社会集団の政治機能——利益団体と市民社会』木鐸社：33-64。
- 内閣府 n.d. [1]「NPO ホームページ 認証・認定数の推移」<https://www.npo-homepage.go.jp/about/toukei-info/ninshou-seni>、2022年9月13日アクセス。
- 内閣府 n.d. [2]「令和2年度 特定非営利活動法人に関する実態調査」、<https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/npojittai-chousa/2020npojittai-chousa>、2022年9月13日アクセス。
- 村松岐夫・伊藤光利・辻中豊（1986）『戦後日本の圧力団体』東洋経済新報社。
- 森裕城（2002）「団体——政党関係」辻中豊編『現代日本の市民社会・利益団体』木鐸社。
- 森裕城・久保慶明（2014）「データからみた利益団体の民意表出」『年報政治学』65巻1号、200-224頁。
- Kitschelt, H. P. (1986) “Political Opportunity Structures and Political Protest: Anti-Nuclear Movements in Four Democracies,” *British Journal of Political Science*, 16(1): 57-85.
- Kume, Ikuo. (1998) *Disparaged Success: Labor Politics in Postwar Japan*, Cornell University Press.
- Lowi, T. J. (1969) *The End of Liberalism*, W. W. Norton and Company, Inc.
- Olson, M. (1971) *The Logic of Collective Action: Public Goods and the Theory of Groups*, Second printing with new preface and appendix, Harvard University Press. (依田博・森脇俊雅訳『集合行為論——公共財と集団理論』ミネルヴァ書房，1983年)
- Pekkanen, R. (2006) *Japan's Dual Civil Society: Members without Advocates*, Stanford University Press. (佐々田博教訳『日本における市民社会の二重構造——政策提言なきメンバー達』木鐸社，2008年)
- Putnam, R. D., R. Leonardi, and R. Y. Nanetti. (1994) *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton University Press. (河田潤一訳『哲学する民主主義——伝統と改革の市民的構造』NTT出版，2001年)

#### ◆第4章

上神貴佳（2013）『政党政治と不均一な選挙制度——国政・地方政治・党首選出過程』東京

大学出版会。

- 小川寛貴 (2017) 「選挙制度不均一の諸相——定義と実態」『早稲田政治公法研究』113：1-16。
- 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子 (2011) 『現代の政党と選挙〔新版〕』有斐閣。
- 国広陽子 (2016) 「国会議員への道」三浦まり編『日本の女性議員——どうすれば増えるのか』朝日新聞出版。
- 佐々木毅・吉田慎一・谷口将紀・山本修嗣編 (1999) 『代議士とカネ——政治資金全国調査報告』朝日新聞出版。
- 佐藤誠三郎・松崎哲久 (1986) 『自民党政権』中央公論社。
- 砂原庸介 (2017) 『分裂と統合の日本政治——統治機構改革と政党システムの変容』千倉書房。
- 建林正彦 (2004) 『議員行動の政治経済学——自民党支配の制度分析』有斐閣。
- 建林正彦 (2017) 『政党政治の制度分析——マルチレベルの政治競争における政党組織』千倉書房。
- 谷口将紀 (2004) 『現代日本の選挙政治——選挙制度改革を検証する』東京大学出版会。
- 中北浩爾 (2014) 『自民党政治の変容』NHK出版。
- 濱本真輔 (2022) 『日本の国会議員——政治改革後の限界と可能性』中央公論新社。
- 三浦まり (2013) 「政権交代とカルテル政党化現象——民主党政権下における子ども・子育て支援政策」『レヴァイアサン』53：35-56。
- 三浦まり (2016) 『日本の女性議員——どうすれば増えるのか』朝日新聞出版。
- 水崎節文・森裕城 (1998) 「得票データからみた並立制のメカニズム」『選挙研究』13：50-59。
- リード，スティーブン，R. (2003) 「並立制における小選挙区候補者の比例代表得票率への影響」『選挙研究』18：5-11。
- Carey, J. M., and M. S. Shugart (1995) “Incentives to Cultivate a Personal Vote: A Rank Ordering of Electoral Formulas,” *Electoral Studies*, 14(4): 417-439.
- Chhibber, P., and K. Kollman (2004) *The Formation of National Party Systems: Federalism and Party Competition in Canada, Great Britain, India, and the United States*, Princeton University Press.
- Cox, G.W. (1997) *Making Votes Count: Strategic Coordination in the World's Electoral Systems*, Cambridge University Press.
- Downs, A. (1957) *An Economic Theory of Democracy*, Harper & Row.
- Duverger, M. (1951) *Les Partis Politiques*, Librairie Armond Colin. (岡野加穂留訳『政党社会学——現代政党の組織と活動』潮出版社，1970年)
- Katz, R. S., and P. Mair (1995) “Changing Models of Party Organization and Party Democracy: The Emergence of the Cartel Party,” *Party Politics*, 1: 5-28.
- Kirchheimer, O. (1966) “The Transformation of the Western European Party Systems,” in J. LaPalombara and M. Weiner eds., *Political Parties and Political Development*, Princeton

上神貴佳 三浦まり編『日本政治の第一歩〔新版〕』（有斐閣，2023年）引用・参考文献  
ISBN：978-4-641-15112-3

University Press, 177-200.

Kohno, Masaru. (1997) *Japan's Postwar Party Politics*, Princeton University Press.

Krauss, E. S., and R. J. Pekkanen (2011) *The Rise and Fall of Japan's LDP: Political Party Organizations as Historical Institutions*, Cornell University Press.

Lipset, S. M., and S. Rokkan eds. (1967) *Party Systems and Voter Alignments: Cross-National Perspectives*, The Free Press.

Müller, W. C., and K. Strøm eds. (1999) *Policy, Office, or Votes?: How Political Parties in Western Europe Make Hard Decisions*, Cambridge University Press.

Panbianco, A. (1982) *Modelli di partito: Organizzazione e potere nei partiti politici*. Il Mulino. (村上信一郎訳『政党——組織と権力』ミネルヴァ書房，2005年)

Poguntke, T., S. E. Scarrow, and P. D. Webb (2016) “Party Rules, Party Resources and the Politics of Parliamentary Democracies: How parties organize in the 21st century,” *Party Politics*, 22(6) : 661-678.

Reed, S. R. (1990) “Structure and Behaviour: Extending Duverger’s Law to the Japanese Case,” *British Journal of Political Science*, 20: 335-356.

Sartori, G. (1976) *Parties and Party Systems: A Framework for Analysis*, Cambridge University Press. (岡沢憲英・川野秀之訳『現代政党学——政党システム論の分析枠組み』早稲田大学出版部，1992年)

Schumpeter, J. A. (1950) *Capitalism, Socialism, and Democracy*, 3rd ed., Harper Perennial Modern Classics. (中山伊知郎・東畑精一訳『資本主義・社会主義・民主主義（新装版）』東洋経済新報社，1995年)

## ◆第5章

飯尾潤（2007）『日本の統治構造——官僚内閣制から議院内閣制へ』中央公論新社。

上神貴佳（2013）「政権交代期における指導者像」飯尾潤編『政権交代と政党政治』中央公論新社：45-73。

大山礼子（2011）『日本の国会——審議する立法府へ』岩波書店。

川人貞史（2015）『議院内閣制』東京大学出版会。

川人貞史（2018）「日本における政権運営と解散・総選挙」河崎健編『日本とヨーロッパの選挙と政治』ぎょうせい：33-50。

瀬戸山順一（2015）「内閣官房・内閣府の業務のスリム化——内閣の重要政策に関する総合調整等に関する機能の強化のための国家行政組織法等の一部を改正する法律案」『立法と調査』364：3-17。

高橋洋（2010）「内閣官房の研究——副長官補室による政策の統合調整の実態」日本行政学会編『年報行政研究45——行政学と共同研究』ぎょうせい：119-138。

高安健将（2013）「政権交代と議院内閣制」飯尾潤編『政権交代と政党政治』中央公論新社：

181-235。

竹中治堅（2005）『『日本型分割政府』と参議院の役割』日本政治学会編『年報政治学 2004——オーラル・ヒストリー』岩波書店，55：99-125。

竹中治堅（2006）『首相支配——日本政治の変貌』中央公論新社。

竹中治堅編（2017）『二つの政権交代——政策は変わったのか』勁草書房。

建林正彦（2004）『議員行動の政治経済学——自民党支配の制度分析』有斐閣。

建林正彦（2017）『政党政治の制度分析——マルチレベルの政治競争における政党組織』千倉書房。

野中尚人・青木遥（2016）『政策会議と討論なき国会——官邸主導体制の成功と後退する熟議』朝日新聞出版。

濱本真輔（2018）『現代日本の政党政治』有斐閣。

原田久（2022）『行政学 第2版』法律文化社。

前田幸男・堤英敬編（2015）『統治の条件——民主党に見る政権運営と党内統治』千倉書房。

待鳥聡史（2012）『首相政治の制度分析——現代日本政治の権力基盤形成』千倉書房。

御厨貴編（2013）『増補新版 歴代首相物語』新書館。

森本哲郎（2016）「首相のリーダーシップ」森本哲郎編『現代日本の政治——持続と変化』法律文化社：92-113。

Lijphart, A. (2012) *Patterns of Democracy: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries*, Yale University Press.

## ◆第6章

芦部信喜・高橋和之補訂（2015）『憲法 第六版』岩波書店。

猪口孝・岩井奉信（1987）『「族議員」の研究——自民党政権を牛耳る主役たち』日本経済新聞社。

岩井奉信（1988）『立法過程』東京大学出版会。

大山礼子（2003）『国会学入門 第二版』三省堂。

奥健太郎・河野康子編（2015）『自民党政治の源流——事前審査制の史的検証』吉田書店。

佐藤誠三郎・松崎哲久（1986）『自民党政権』中央公論社。

竹中治堅（2010）『参議院とは何か——1947~2010』中央公論新社。

建林正彦（2004）『議員行動の政治学——自民党支配の制度分析』有斐閣。

辻元清美（2020）『国対委員長』集英社。

中島誠（2020）『立法学——序論・立法過程論 第四版』法律文化社。

濱本真輔（2007）「選挙制度改革と自民党議員の政策選好——政策決定過程変容の背景」『レヴァイアサン』41：74-96。

福元健太郎（2000）『日本の国会政治——全政府立法の分析』東京大学出版会。

福元健太郎（2011）「立法」平野浩・河野勝編『新版アクセス比較政治』日本経済評論社：

145-164。

藤村直史（2010）『立法組織と議会政治——日本における内閣総理大臣の指導力と政党の一体性』京都大学博士（法学）論文。

増山幹高（2003）『議会制度と日本政治——議事運営の計量政治学』木鐸社。

待鳥聡史（2008）「「多数主義」時代の二院制を再考する——日本政治は参議院とどう向き合うか」『論座』152：26-32。

松本俊太（2007）「55年体制下における委員会制度再考——委員会審議における党派性と特殊利益」『名城法学』57（1・2）：399-446。

松本俊太・松尾晃孝（2010）「国会議員はなぜ委員会で発言するのか？——政党・議員・選挙制度」『選挙研究』26（2）：84-103。

Baerwald, H. H. (1974) *Japan's Parliament: An Introduction*, Cambridge University Press. （橋本彰・中邨章訳『日本人と政治文化』人間の科学社，1974年）

Bowler, S., D. M. Farrell, and R. S. Katz. (1999) “Party Cohesion, Party Discipline, and Parliaments.” In Bowler, S., D. M. Farrell, and R. S. Katz eds., *Party Discipline and Parliamentary Government*. Ohio State University Press, 3-22.

Catalinac, A. (2016) *Electoral Reform and National Security in Japan: From Pork to Foreign Policy*, Cambridge University Press.

Depauw, S, and S. Martin. (2009) “Legislative Party Discipline and Cohesion in Comparative Perspective,” in Giannetti, D., and K. Benoit eds., *Intra-Party Politics and Coalition Governments*, Routledge.

Fujimura, Naofumi. (2012) “Electoral Incentives, Party Discipline, and Legislative Organization: Manipulating Legislative Committees to Win Elections and Maintain Party Unity,” *European Political Science Review*, 4(2): 147-175.

Fujimura, Naofumi. (2015) “The Influence of Electoral Institutions on Legislative Representation: Evidence from Japan’s Single Non-Transferable Vote and Single-Member District Systems,” *Party Politics*, 21(2): 209-221.

Inter-Parliamentary Union. Parline database on national parliaments. <https://data.ipu.org>.

Lijphart, A. (1999) *Patterns of Democracies: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries*, Yale University Press. （粕谷祐子訳『民主主義対民主主義——多数決型とコンセンサス型の36カ国比較研究』勁草書房，2005年）

Mochizuki, M. M. (1982) *Managing and Influencing the Japanese Legislative Process: The Role of Parties and the National Diet*. Ph.D. Dissertation, Harvard University.

Polsby, N. W. (1975) “Legislatures,” in Greenstein, F. I. and N. W. Polsby eds., *Handbook of Political Science*, Vol. 5, Addison-Wesley: 257-319.

Sieberer, U. (2006) “Party Unity in Parliamentary Democracies: A Comparative Analysis.” *The Journal of Legislative Studies*, 12(2): 150-178.

上神貴佳 三浦まり編『日本政治の第一歩〔新版〕』（有斐閣，2023年）引用・参考文献  
ISBN：978-4-641-15112-3

- Strøm, K.. (2000) “Delegation and Accountability in Parliamentary Democracies,” *European Journal of Political Research*, 37(3): 261-290.
- Thies, M. F., and Yuki Yanai. (2013) “Governance with a Twist: How Bicameralism Affects Japanese Lawmaking,” in Pekkanen, R., S. Reed, and E. Scheiner eds., *Japan Decides 2012: The Japanese General Election*, Palgrave Macmillan, 225-244.
- Thies, M. F., and Yuki Yanai. (2014) “Bicameralism vs. Parliamentarism: Lessons from Japan’s Twisted Diet,” 『選挙研究』 30(2): 60-74.
- Vatter, A. (2005) “Bicameralism and Policy Performance: The Effects of Cameral Structure in Comparative Perspective,” *The Journal of Legislative Studies*, 11(2): 194-215.

## ◆第7章

- 稲継裕昭（1996）『日本の官僚人事システム』東洋経済新報社。
- NHK取材班（2021）『霞が関のリアル』岩波書店。
- 沖本, ダニエル, I. / 渡辺敏訳（1991）『通産省とハイテク産業——日本の競争力を生むメカニズム』サイマル出版会。
- 上川龍之進（2010）『小泉改革の政治学——小泉純一郎は本当に「強い首相」だったのか』東洋経済新報社。
- 上川龍之進（2011）「金融ガバナンス」大山耕輔編著『比較ガバナンス』おうふう：199-226。
- 上川龍之進（2013）「民主党政権の失敗と一党優位政党制の弊害」『レヴェイアサン』 53：9-34。
- 菅直人（1998）『大臣』岩波書店。
- ケインズ, J. M. / 塩野谷祐一訳（1995）『雇用・利子・および貨幣の一般理論』東洋経済新報社。
- 駒崎弘樹・秋山訓子（2016）『社会をちょっと変えてみた——ふつうの人が政治を動かした七つの物語』岩波書店。
- サミュエルズ, リチャード, J. / 廣松毅訳（1999）『日本における国家と企業——エネルギー産業の歴史と国際比較』多賀出版。
- 嶋田博子（2022）『職業としての官僚』岩波書店。
- 清水真人（2015）『財務省と政治——「最強官庁」の虚像と実像』中央公論新社。
- ジョンソン, チャーマーズ / 佐々田博教訳（2018）『通産省と日本の奇跡——産業政策の発展 1925-1975』勁草書房。
- 杉本裕明（2016）『社会を変えた情報公開——ドキュメント・市民オンブズマン』花伝社。
- 千正康裕（2020）『ブラック霞が関』新潮社。
- 田中嘉彦（2006）「請願制度の今日的意義と改革動向」『レファレンス』 665：66-83。
- 辻清明（1969）『新版 日本官僚制の研究』東京大学出版会。
- 中島誠（2014）『立法学 第三版——序論・立法過程論』法律文化社。



- 中野雅至（2009）『天下りの研究——その実態とメカニズムの解明』明石書店。
- 西尾勝（2001）『行政学 新版』有斐閣。
- パーキンソン，C.N./森永晴彦訳（1996）『パーキンソンの法則』至誠堂。
- 藤田由紀子（2015）「政策的助言・政策形成の専門性はどこまで定式化できるか？——英国  
公務員制度改革におけるポリシー・プロフェッションの創設」日本行政学会編『年報  
行政研究 50——行政の専門性と人材育成』ぎょうせい：2-23。
- 前田健太郎（2014）『市民を雇わない国家——日本が公務員の少ない国へと至った道』東京  
大学出版会。
- 牧原出（2016）『「安倍一強」の謎』朝日新聞出版。
- 真淵勝（2006）「官僚制の変容——萎縮する官僚」村松岐夫・久米郁男編著『日本政治変動  
の30年——政治家・官僚・団体調査に見る構造変容』東洋経済新報社：137-158。
- 真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣。
- 村上弘・佐藤満編著（2016）『よくわかる行政学 第二版』ミネルヴァ書房。
- 村松岐夫（1981）『戦後日本の官僚制』東洋経済新報社。
- 村松岐夫（1994）『日本の行政——活動型官僚制の変貌』中央公論社。

## ◆第8章

- 伊吹早織（2017）「立憲民主党の街頭演説が「SNS 映え」する理由——自民党と比べたらわ  
かる秘策が」『バズフィードニュース』（<https://www.buzzfeed.com/jp/saoriibuki/cdp-ldp-ga-isen>）。
- 稲増一憲（2014）『政治を語るフレーム——乖離する有権者、政治家、メディア』東京大学  
出版会。
- 稲増一憲（2022）『マスメディアとは何か——「影響力」の正体』中央公論新社。
- 内山融（1999）「マスメディア，あるいは第4の権力？」佐々木毅編『政治改革 1800 日の  
真実』講談社。
- 逢坂巖（2014）『日本政治とメディア——テレビの登場からネット時代まで』中央公論新社。
- 北村智・森康俊・辻大介（2016）「情報行動の全般的傾向」橋元良明『日本人の情報行動 2015』  
東京大学出版会。
- 上ノ原秀晃（2014）「2013年参議院選挙におけるソーシャルメディア——候補者たちは何を  
「つぶやいた」のか」『選挙研究』30(2)：116-128。
- 蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一（2010）『メディアと政治 改訂版』有斐閣。
- 清原聖子・前嶋和弘・李洪千（2013）「鼎談 2013年参院選に見るネット選挙運動の将来」  
清原聖子・前嶋和弘編『ネット選挙が変える政治と社会——日米韓に見る新たな「公  
共圏」の姿』慶應義塾大学出版会。
- 境家史郎（2022）『選挙・世論対策 若年層を取り込んだ「静かなる革命」』アジア・パシフ  
ィック・イニシアティブ「検証安倍政権 保守とリアリズムの政治」文藝春秋。

- 鮫島浩（2022）『朝日新聞政治部』講談社。
- 砂川浩慶（2016）『安倍官邸とテレビ』集英社。
- 芹川洋一・佐々木毅（2017）『政治を動かすメディア』東京大学出版会。
- 田中辰雄・浜屋敏（2019）『ネットは社会を分断しない』KADOKAWA。
- 辻大介（2021）「ネットは世論を分極化するか——政権支持と改憲賛否を中心に検証する」  
辻大介編『ネット社会と民主主義——「分断」問題を調査データから検証する』有斐閣。
- 西田亮介（2015）『メディアと自民党』KADOKAWA。
- 橋元良明・北村智・森康俊・木村忠正・辻大介・片桐恵子・大野志郎（2021）「情報行動の  
全般的傾向」橋元良明編『日本人の情報行動2020』東京大学出版会。
- 林香里（2017）『メディア不信——何が問われているのか』岩波書店。
- Cappella, J. N. and K. H. Jamieson. (1997), *Spiral of Cynicism: The Press and the Public Good*,  
Oxford University Press. (平林紀子・山田一成監訳『政治報道とシニシズム——戦略型フ  
レーミングの影響過程』ミネルヴァ書房，2005年)
- Iyenger, S. (1991) *Is Anyone Responsible? How Television Frames Political Issues*. Chicago  
University Press.
- Kobayashi, Tetsuro, and Inamasu, Kazunori. (2015) “The Knowledge Levelling Effect of Portal  
Sites,” *Communication Research*, 42(4): 482-502.
- Sunstein, C. R. (2001) *Republic.com*. Princeton University Press. (石川幸憲訳『インターネット  
は民主主義の敵か』毎日新聞社，2003年)
- Sunstein, C. R. (2017) *#Republic: Divided Democracy in the Age of Social Media*. Princeton  
University Press. (伊達尚美訳『#リパブリック——インターネットは民主主義の敵か』  
毎日新聞社，2003年)

## ◆第9章

- 飯尾潤（2007）『日本の統治構造——官僚内閣制から議院内閣制へ』中央公論新社。
- 飯尾潤（2013）『現代日本の政策体系——政策の模倣から創造へ』筑摩書房。
- 内山融（1998）『現代日本の国家と市場——石油危機以降の市場の脱＜公的領域＞化』東京  
大学出版会。
- 内山融・伊藤武・岡山裕編（2012）『専門性の政治学——デモクラシーとの相克と和解』ミ  
ネルヴァ書房。
- 大嶽秀夫（1979）『現代日本の政治権力経済権力』三一書房。
- 窪田修編（2016）『図説 日本の財政 平成28年度版』東洋経済新報社。
- 西尾勝（2001）『行政学 新版』有斐閣。
- 野中尚人・青木遥（2016）『政策会議と討論なき国会——官邸主導体制の成立と後退する熟  
議』朝日新聞出版。

- Allison, G. T. (1969) "Conceptual Models and the Cuban Missile Crisis," *American Political Science Review*, 63 (3): 689-718.
- Bachrach, P., and M. S. Baratz (1962) "Two Faces of Power," *American Political Science Review*, 56 (4): 947-952.
- Bentley, A. F. (1908) *The Process of Government: A Study of Social Pressures*, The University of Chicago Press.
- Campbell, J. C. (1977) *Contemporary Japanese Budget Politics*, University of California Press. (小島昭・佐藤和義訳『予算どんぶり——日本方予算政治の研究』サイマル出版会，1984年)
- Cohen, M. D., J. G. March, and J. P. Olsen (1972) "A Garbage Can Model of Organizational Choice," *Administrative Science Quarterly* 17 (1): 1-25.
- Crenson, M. A. (1971) *The Un-politics of Air Pollution: A Study of Non-decisionmaking in the Cities*, Johns Hopkins University Press.
- Immergut, E. M. (1990) "Institutions, Veto Points, and Policy Results: A Comparative Analysis of Health Care," *Journal of Public Policy* 10 (4): 391-416.
- Goldstein, J., and R. O. Keohane. (1993) "An Analytical Framework," in Goldstein, J., and R. O. Keohane eds., *Ideas and Foreign Policy: Beliefs, Institutions, and Political Change*, Cornell University Press.
- Kingdon, J. W. (1995) *Agendas, Alternatives, and Public Policies*, 2nd ed., HarperCollins College Publishers.
- Lindblom, C. E. (1959) "The Science of 'Muddling Through'," *Public Administration*, 19(2): 79-88.
- Lowi, T. J. (1972) "Four Systems of Policy, Politics, and Choice," *Public Administration Review*, 32 (4): 298-310.
- Lowi, T. J. (1979) *The End of Liberalism: The Second Republic of the United States*, W. W. Norton & Company.
- Lukes, S. (2005) *Power: A Radical View*, 2nd ed., Palgrave Macmillan.
- Simon, H. A. (1947) *Administrative Behavior: a Study of Decision-Making Processes in Administrative Organization*, Macmillan.
- Tsebelis, G. (2002) *Veto Players: How Political Institutions Work*, Princeton University Press.
- Wilson, J. Q. (1973) *Political Organizations*, Basic Books.

## ◆第10章

- 磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2020）『ホーンブック地方自治 新版』北樹出版。
- 井手弘子（2010）「市民同士の熟議／対話——日本における市民討議会の実証研究」田村哲樹責任編集『語る——熟議／対話の政治学』風行社。
- 上神貴佳（2015）「地方議会と地域住民自治組織——福井県嶺南地域における基礎自治体の

上神貴佳 三浦まり編『日本政治の第一歩〔新版〕』（有斐閣，2023年）引用・参考文献  
ISBN：978-4-641-15112-3

議会を中心に」宇野重規・五百旗頭薫編『ローカルからの再出発——日本と福井のガバナンス』有斐閣。

宇賀克也（2021）『地方自治法概説 第9版』有斐閣。

大森彌（1986）「革新」と選挙連合」大森彌，佐藤誠三郎編『日本の地方政府』東京大学出版会。

大森彌（2009）「分権時代の議会改革」日経グローバル編『地方議会改革マニフェスト』日本経済新聞出版社。

岡田一郎（2016）『革新自治体——熱狂と挫折に何を学ぶか』中央公論新社。

金井利之（2016）「地域における民意」辻山幸宣，堀内匠編『自治総研ブックレット 19 “地域の民意”と議会』公人社。

河村和徳（2008）『現代日本の地方選挙と住民意識』慶應義塾大学出版会。

河村和徳（2010）『市町村合併をめぐる政治意識と地方選挙』木鐸社。

北村亘（2013）『政令指定都市——百万都市から都構想へ』中央公論新社。

小林良彰・中谷美穂・金宗郁（2008）『地方分権時代の市民社会』慶應義塾大学出版会。

坂野達郎（2012）「討論型世論調査（DP）——民意の変容を世論調査で確かめる」篠原一編『討議デモクラシーの挑戦——ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』岩波書店。

佐藤徹（2005）「市民参加の基礎概念」佐藤徹・高橋秀行・増原直樹・森賢三『新説市民参加——その理論と実際』公人社。

佐藤徹（2012）「市民討議会の広がりとその動向」『地域開発』574：7-11。

篠藤明德（2012）「計画細胞会議——メンバーを入れ替えながらの少人数討議」篠原一編『討議デモクラシーの挑戦——ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』岩波書店。

砂原庸介（2011）『地方政府の民主主義——財政資源の制約と地方政府の政策選択』有斐閣。

曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣。

曾我謙悟・待鳥聡史（2007）『日本の地方政治——二元代表制政府の政策選択』名古屋大学出版会。

築山宏樹（2015）「地方政府の立法的生産性——知事提出議案の実証分析」『公共選択』64：6-29。

辻陽（2019）『日本の地方議会——都市のジレンマ、消滅危機の町村』中央公論新社。

西尾勝（1980）「市政と市民の参加」佐藤竺編『住民参加』至文堂。

増田寛也（2014）『地方消滅——東京一極集中が招く人口急減』中央公論新社。

柳至（2010）「参加制度の導入と市民社会組織の政策参加」辻中豊・伊藤修一郎編著『ローカル・ガバナンス——地方政府と市民社会』木鐸社。

柳瀬昇（2015）『熟慮と討議の民主主義理論——直接民主制は代議制を乗り越えられるか』ミネルヴァ書房。

Fishkin, J. S. (2009) *When the People Speak: Deliberative Democracy and Public Consultation*, Oxford University Press. （曾根泰教監修・岩本貴子訳『人々の声が響き合うとき——熟

上神貴佳 三浦まり編『日本政治の第一歩〔新版〕』（有斐閣，2023年）引用・参考文献  
ISBN：978-4-641-15112-3

議空間と民主主義』早川書房，2011年）

#### 参考資料

全国市議会議長会『市議会の活動に関する実態調査結果：令和2年中』

<https://www.si-gichokai.jp/research/jittai/index.html>

全国町村議会議長会「今後の町村議会のあり方と自治制度に関する研究会」『町村議会議員の活動実態と意識～町村議会議員意識調査結果をふまえて～』（平成25年2月）

<http://www.nactva.gr.jp/html/research/study.html>

総務省『地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調等』（令和3年12月31日現在）

[https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/data/syozoku/ichiran.html](https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/data/syozoku/ichiran.html)

総務省「町村議会のあり方に関する研究会」『町村議会のあり方に関する研究会 報告書』（平成30年3月）

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/kenkyu/choson\\_gikai/index.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/choson_gikai/index.html)

地方自治総合研究所編『全国首長名簿——都道府県知事・前市区長 2021年版』日本自治総合研究所。

<http://jichisoken.jp/archive/jichitaisenkyo/index.html>

## ◆第11章

稲葉剛（2013）『生活保護から考える』岩波書店。

大沢真理（2014）『生活保障のガバナンス——ジェンダーとお金の流れで読み解く』有斐閣。

新川敏光（2005）『日本型福祉レジームの発展と変容』ミネルヴァ書房。

田中拓道（2017）『福祉政治史——格差に抗するデモクラシー』勁草書房。

三浦まり（2015）『私たちの声を議会へ——代表制民主主義の再生』岩波書店。

三浦まり編（2018）『社会への投資——〈個人〉を支える〈つながり〉を築く』岩波書店。

宮本太郎（2008）『福祉政治——日本の生活保障とデモクラシー』有斐閣。

宮本太郎（2021）『貧困・介護・育児の政治——ベーシックアセットの福祉国家へ』朝日新聞出版。

Miura, Mari. (2012) *Welfare Through Work: Conservative Ideas, Partisan Dynamics, and Social Protection in Japan*, Cornell University Press.

## ◆第12章

岡野八代（2009）『シティズンシップの政治学——国民・国家主義批判 増補版』白澤社。

後藤光男（2016）『永住市民の人権——地球市民としての責任』成文堂。

島藺進（2010）『国家神道と日本人』岩波書店。

千葉眞（2000）『デモクラシー』岩波書店。

- ハンマー，トーマス／近藤敦監訳（1999）『永住市民（デニズン）と国民国家——定住外国人の政治参加』明石書店。
- 樋口陽一（1996）『人権（一語の辞典）』三省堂。
- 福沢諭吉（1978）『学問のすゝめ』岩波書店。
- フーコー，ミシェル／小林康夫・石田英敬・松浦寿輝編集（2006）『生政治・統治』筑摩書房。
- 牧原憲夫（1990）『明治七年の大論争——建白書から見た近代国家と民衆』日本経済評論社。
- 牧原憲夫（1998）『客分と国民のあいだ——近代民衆の政治意識』吉川弘文館。
- ルソー，J.J／桑原武夫・前川貞治郎訳（1954）『社会契約論』岩波書店。
- ヴェーバー，マックス／脇圭平訳（1980）『職業としての政治』岩波書店。
- 山室信一（2007）『憲法9条の思想水脈』朝日新聞出版。
- マーシャル，T. H. = トム・ボットモア／岩崎信彦・中村健吾訳（1993）『シティズンシップと社会的階級——近現代を総括するマニフェスト』法律文化社。